

もくじ 絵図が語る千住宿 1P 新しい千住宿案内ができました! 2P  
戦時下の小学校生活 3P

# 足立史談

## 第594号

2017年8月15日

足立区教育委員会

足立史談編集局

足立区立郷土博物館内

〒120-0001

東京都足立区大谷田5-20-1

TEL 03-3620-9393

FAX 03-5697-6562

(29-308)

### 絵図が語る千住宿

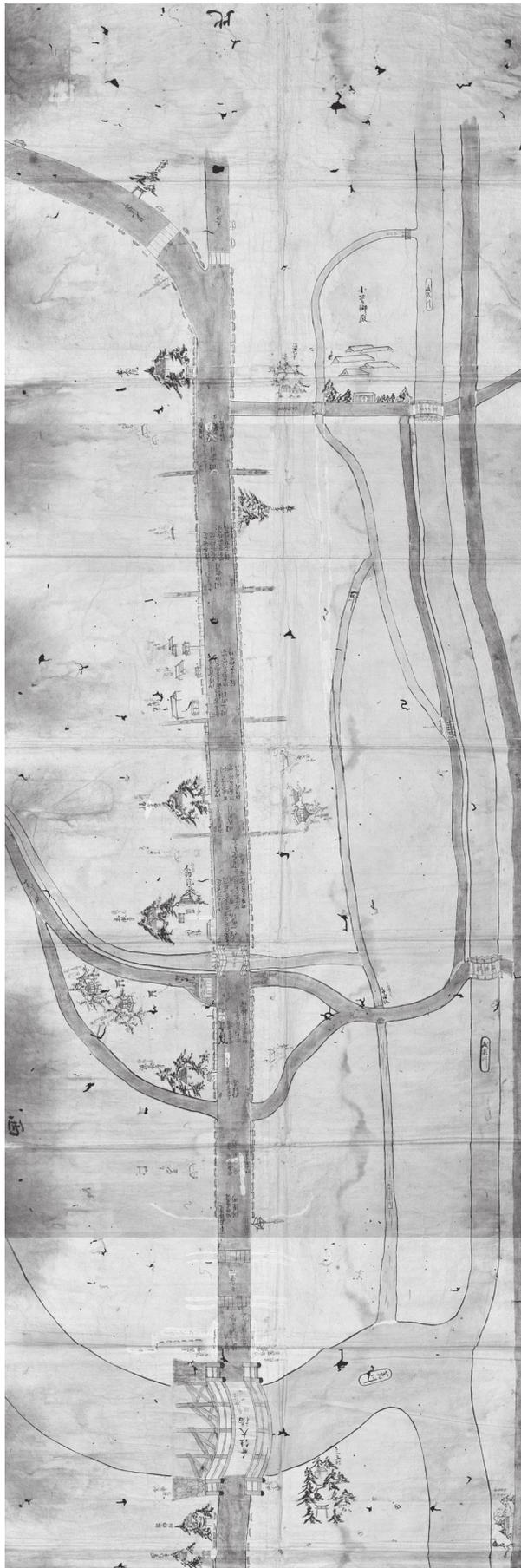
郷土博物館

左の絵図は江戸時代に作成された千住宿図の一つです。真ん中を南北に走るのが日光道中、南に描かれているのが千住大橋です。

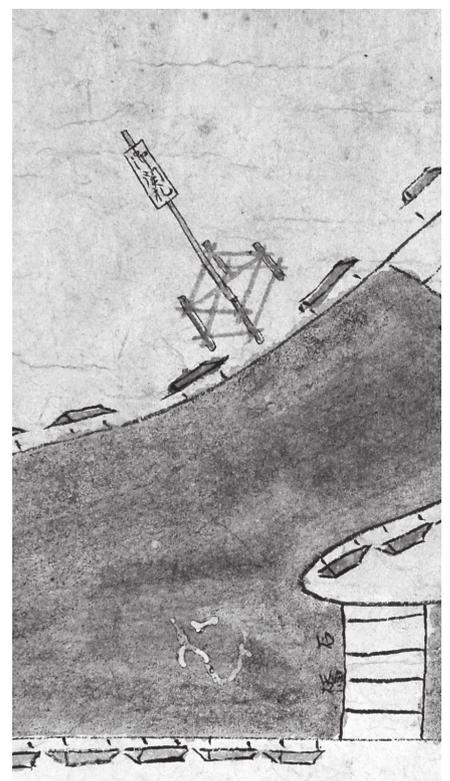
千住二丁目の名主をつとめた高田家が伝来した絵図です。町役人が宿場としての機能を確認するために作成された絵図らしく、本図でのみ確認できる記述がいくつかあります。

■「御関札」 例えば宿場の入口に設置された「関札」の記載です。関札は宿場を利用する大名や公家などの名前を掲示して、他の大名たちに宿場の利用状況を知らせる役割がありました。今日のホテルや旅館で掲げられる歓迎看板の役割に近い機能

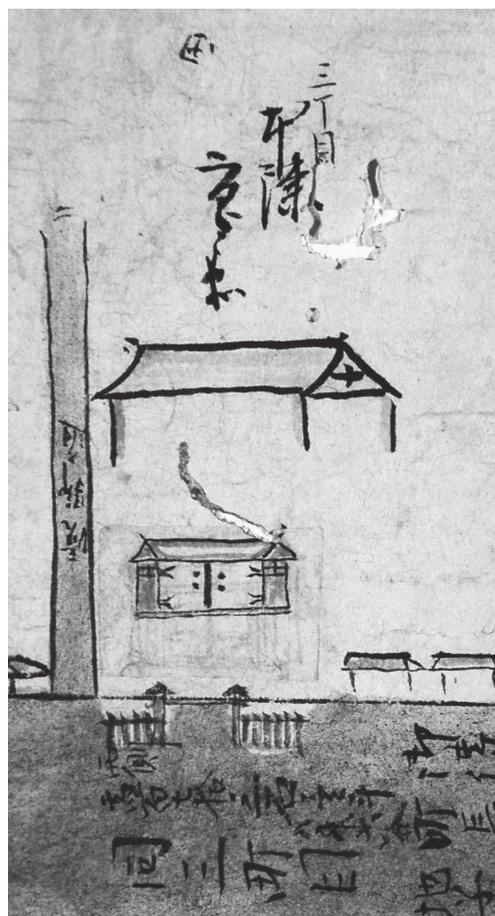
でしょうか。本図を見ると千住大橋側には、現在の千住河原町南部に一ヶ所、北側には千住五丁目に一ヶ所設置されていたことが確認できます。参勤交代は一般的に四、六、八、十二月に国元出発、江戸出発が八月がありますが、とく



江戸後期の千住宿図  
(郷土博物館蔵高田家文書)



千住五丁目の関札部分  
(拡大) 本写真は上が西



三丁目南の千住宿本陣の記載

に「武家諸法度」で指示されている  
四月中は集中し、関札の機能は宿場  
の円滑利用のために不可欠でした。

■本陣 千住宿の本陣は千住三丁目  
南端の街道西側にありました。その  
構造は現在、確認できていませんが  
本図にはその手がかりが示されてい  
ます。右の部分拡大した記載による  
と、街道側に冠木門があり、中に入  
ると棟門が見えます。さらに本陣の  
主屋が描かれています。この形は本  
陣の格式として知られており（歌川  
広重《東海道五十三次 関 本陣早  
立》など）、大名や日光門主、公家  
たちが利用した当時のようすを連想  
させます。上に記された「三丁目  
本陣 市郎兵衛」は秋葉市郎兵衛家  
のことで長く千住宿の本陣をつとめ  
て明治に至っています。

■小菅御殿 ほかに將軍家御殿であ  
る小菅御殿も宿場の北東に描かれ

ています。將軍家の御殿は、四代  
將軍の徳川家綱が利用した慶安年  
間（一六五〇年ごろ）設置の千住御  
殿がありました。享保年間のはじめ  
（一七一〇年頃）までに廃止され、  
その後、小菅にあった屋敷（はじめ  
代官伊奈氏の屋敷、のち側用人柳沢  
吉保の屋敷）に、御殿が構築され、  
八代吉宗と九代家重がたびたび利用  
しました。將軍の通行もしばしば行  
われたポイントであり千住宿に隣接  
する重要施設でした。

本絵図は、このたび千住本町商店  
街振興組合さんが掲示した「千住ほ  
んちよう商店街歴史散歩」（下記参  
照）でご覧いただけます。

江戸四宿最大の宿場であった千住  
宿の姿を想像するよすがとして是非  
ご覧ください。

（郷土博物館）

## 新しい千住宿案内ができました！

千住一丁目の旧トポス・第一生命  
ビル・都税事務所の一帯は再開発ビ  
ル建設のため解体工事中です。

この工事フェンスに、千住本町商  
店街振興組合（千住ほんちよう商店  
街）と工務会社（株）フジタのご協力に  
より、六月一九日、千住宿の案内を  
掲示しました。

旧道の商店街側では、「千住ほん  
ちよう商店街歴史散歩」と題し、「森  
鷗外の旧居」と「繁栄 千住宿」の  
案内をしています。ここは、森鷗外  
の父静男が医院を開いた場所で、鷗  
外もこの家から人力車で東大病院へ  
通っていました。文京区立森鷗外記  
念館所蔵の肖像写真が当時の鷗外の  
姿を示しています。鷗外とは「千住」  
を示すという名前の由来も紹介して

います。

「繁栄 千住宿」では、郷土博物  
館所蔵の千住宿絵図（上記参照）を  
提供しました。現在との比較もでき  
高詳細に拡大されているため、絵図  
の細かい表現も楽しめます。

郷土博物館制作のものは、「千住  
宿場案内」と題し、千住宿の特徴を  
「細長い敷地」・「寺と神社」・「日  
道中とつくり」・「二つの堤防」・「問  
屋のまち」といった五つのキーワー  
ドを取り上げて紹介しています。い  
ずれも旧街道を歩いて実感できる内  
容です。また、工事のため一時撤  
去している「鷗外碑」の解説も。ガ  
イドブックを見て「鷗外碑」を探し  
ている方へも対応しています。地元  
にお住まいの方はもちろん、史跡巡  
りに訪れた方にも、楽しんでいただ  
ける内容です。



商店街側の貼り込み作業（上）  
絵図シートは900×3600cmの大きさを  
見ごたえ充分。

郷土博物館の「千住宿案内」（下）  
旧道から、通称「のみ横」へ至る道側へ掲  
示しています。

# 戦時下の小学校生活

## —千寿第四小学校関係文書—

### ■資料の概要

昨年十月、当館に千寿第四小学校（現千寿常東小学校）卒業生である松村幸司氏のご遺族内田幸子様から、戦前・前後にかけての同校に関する資料が寄贈された。

※千寿第四小学校という名称は、戦後のものである。その前身は千寿第四尋常小学校だが、昭和十六年四月一日の国民学校令により、千寿第四国民学校に名称が変わった。松村氏は昭和十四年に入学しているため、ここでは千寿第四小学校と表記する。

松村氏は昭和八年（一九三三）二月に千住旭町で生まれ、昭和十四年四月に千寿第四尋常小学校に入学し

た。生前松村氏は一年生から六年生までの資料を丁寧に整理し、保存されていた。

寄贈された資料は、松村氏が小学校時代に授業の一環で作成した作文・図画・習字や試験答案、学校側が作成し生徒に配布した文書など、全部で二〇三点である。ここでは、その中から、いくつかの資料を紹介し、戦時下の小学校でどのような教育が行われていたのか、その一端を見てみたい。

### ■資料に見る戦争と日常

まず注目されるのは、やはり時勢を反映した資料である。例えば、小学校二年生の時に描いた図画は、日独伊三国同盟の成立を祝う資料である（写真1）。

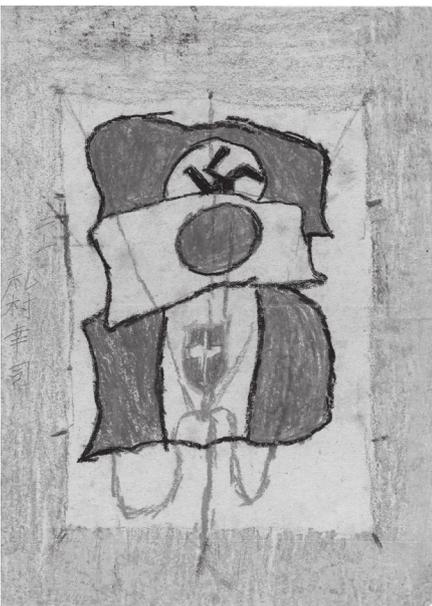


写真1 2年生の図画（昭和15年）  
日独伊の国旗が描かれている

ある（写真1）。日独伊三国同盟は、昭和十五年九月二十七日に成立し、日本の国際的孤立を深めるきっかけとなったものであるが、当時の日本では好意的に受け止められていた。こうした政治的な話題が小学校二年生の

図画の時間にまで浸透していたのである。他にも、戦闘機や軍艦の図画などもみられる。

資料の中には、賞状類も多く含まれている。昭和十四年七月には「今事変に際し恤兵金御寄付につき」と記された陸軍大臣板垣征四郎の感謝状がある。「今事変」とは、同年五月十一日から九月十六日まで続いたノモンハン事件のことと考えられる。そして、恤兵（じゅつべい）とは、物品を送って、戦地の兵士を慰問することである。つまり松村氏は、ノモンハン事件に際して陸軍に寄付金を贈っていたのである。昭和十四年といえば、松村氏はまだ小学校に入学したばかりだ。

こうした戦時色は、作文においても顕著に現れる。ここでは、松村氏の作文を二つ紹介したい。まずは昭和十六年十二月十二日に書かれたものを見てみよう。

・「」は先生の校訂・コメント  
・旧字はすべて新字に改め、適宜句読点を補った。

### 日米英戦争

十二月八日朝、ラヂオで「戦争が始まった。」とアナウンサーが言った。僕は「いよ／＼始ったな」と思った。学校で十一時三十分天皇陛下から「戦をやれ」と言ふ勅が下った。学

校ではラヂオでりんじニュース（ママ）をかけてくださった。けい防だんのを皆さんも聞いていた。僕は胸がどき／＼して来た。僕は一枚の紙でもむだにしないで、しっかり勉強して、体をぢやうぶにして、大きくなったらお国のためにやく立人になりたいと思ひました。学「校」からかへるとラヂオがりんじニュースと音楽ばかりやっつてい「あ」ました。いまではハワイ・グアム島・フィリッピンぐん島・シンガポール上陸し、爆撃してきました。夜になるとけいかいはいはうが鳴りました。僕は前からわくつづぶれますやうに神様においのりをしていきます。終

「。の下を一字あけてかきませう。あの日の気持がよくかけてるます。」

昭和十六年十二月八日、日本は米国の真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が勃発した。この作文は、そのわずか四日後に書かれている。松村氏は、「いよ／＼始ったな」と思っており、まだ三年生ながら、米英との戦争が始まることを予感していたことがわかる。松村氏が朝に聞いたラジオは家で聞いたのだろうか。その後、学校に行つて警防団の人も含めて皆でラジオを聞いた。松村氏は胸がドキドキしたという。そして、「お国のた

めに「役立つ人間になりたとい願っている。こうした軍事色の一方で、先生のコメントには、句点の下を一文書開けて書くようにという指導が書かれており、今と変わらぬ教育のあり方もうかがえる。

次に当時の日常生活を記した五年生（昭和十九年）の時の作文をみてみよう。

### 交通の一日

僕は毎朝五時頃おきき「ます。」外へ出ると産業戦士の小父さんが駅に向かつて走るやうに歩いて行きます。七時頃中学生達が二列に並んで歩ちやうをそろへて学校の方へ歩る（ママ）いて行きます。僕達も隣組の一年生から呼び集めて学校へ行きます。よ「か」うすれば自輪「転」車にも自動車にもしようとしません。学校から帰「へ」とお使ひに行きます。よく本を見ながら歩いてる人がありますが、あれはあぶないからやめませう「なと思ひます」。十じろをつつきる時は信号をよく守つて歩きます。信号のない所では左右をよく見てから通ります。帰へつて来てるじからいきなりでるのはきけんですから、その時はゆつくりと落ち着いて出来ます「るやう母に言はれます」。あそぶ時はなるべく道ろで遊ばないやうにしませう「す」。米英の子供に負けず「体をきたへ」、

乗物で死ぬことは犬死とおなじです。お国のからだですから大切にしてお、道を歩く時は左側を歩きます「通行を守ります」。鉄道線路にぞつたいはいらな（い脱）やうにしませう。そして敵米菓をげきめつしませう。「少年団の常会できめました。小さい子にも皆で注意しています。」

「僕は自転車にのれますが、夜はどんな急ぎのお便でもものらないことにしています。」

冒頭に出てくる産業戦士とは、戦時下の労働者のことで、戦争を支える戦士とみなされていた。昭和十六年十月には、ビクターから「少年産業戦士の歌」という歌が出されている。また、同年（月不明）にはテイチクも「産業戦士の歌」を発売しており、冒頭の歌詞は「銃はとらねどハンマーもつて 俺等銃後の産業戦士」とある。このように産業戦士とは戦時色の強い言葉であるが、父親達が急ぎ足で出勤する日常の光景が目に見えかぶ。

ついで松村氏は隣組の一年生等を呼び集めて登校する。面白いのは、本を見ながら歩いている人を注意していることで、現代、歩きスマホが問題となつていふことを考えると、いつの時代も変わらないものだと痛感させられる。こうした日常生活が書かれているが、最後の方では、

やはり時代を反映して軍国的内容も出てくる。

### ■学校作成の資料

学校が作成した資料としては、通信簿や休業中の心得、副校長の任命書、学業や実技に関する種々の賞状などがある。

昭和十五年十二月二十四日に配布された「冬季休業中の心得」の冒頭には「皆さん（戦はこれから）国民がもつとく心を引きしめて立ち上がらなければならぬ重大な昭和十六年も近づいて冬休みになりました。この休み中は年末年始の忙しい時であり、又御馳走を食はずすぎたり風邪をひいたり、とかく病気にかかりやすい時です。皆さんは次の事をよく守つて幸の多い新年を迎へて下さい。」と記されている。そして、衛生・遊び・お行儀勉強・非常時の四項目について心得が記されている。その中には「活動写真、其他人込のところにはなるべく行かないやうにしませう」といった歓楽街に出入りしな

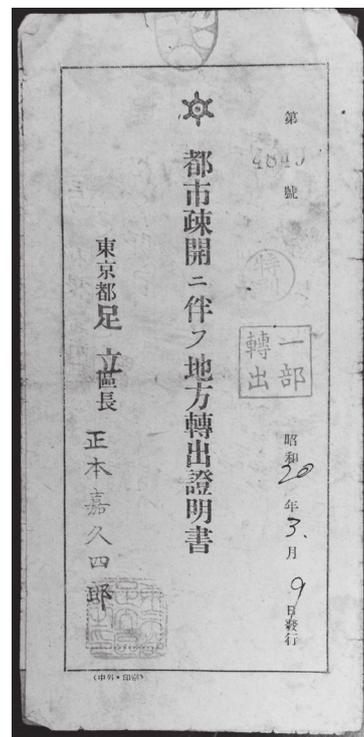


写真2  
「都立疎開二伴フ地方転出証明書」  
(昭和20年3月9日)  
足立区長名で発行されており、  
文書番号も記された公文書

いようにというものもあり、ここでも現在と変わらぬ姿を見て取れる。

### ■疎開資料

太平洋戦争の戦火が激しくなる中、松村氏は群馬県沼田に縁故疎開している。その時発行された「都立疎開二伴フ地方転出証明書」(写真2)が残されている。これは、足立区長が発行したもので、発行日は昭和二十年三月九日、転出予定日は同二十五日となっている。証明書が発行された翌日は東京大空襲の日であるが、千住地域は橋戸町や河原町などで被害があつたものの松村氏のみた旭町は比較的被害が少なかった。こうした疎開資料は、大変貴重なものである。

### ■おわりに

今回寄贈された資料は、戦時下の足立区の小学生の生活を物語るもので、一年生から六年生までまとまつて残っている点でも貴重である。今後、大切に保存していきたい。

(専門員 佐藤貴浩)